

山梨県富士吉田市の御師の現状

—御師へのアンケート調査から—

大東文化大学大学院博士前期課程 シュレヤ ワグ

1. 目的

本報告の目的は、富士山信仰の拠点の一つである山梨県富士吉田市（北口本宮浅間神社）の御師（おし）へのアンケート調査に基づき、現状を明らかにすると共に、現代において彼らが果たす役割と意識の変化を考察することである。先行研究の中で歴史的な研究が多く、彼らの現状は明らかにする研究は非常に少ない。

御師とは、多数の修行者が集まる霊山で、各登山道には登拝者を宿泊させ、神事を行い、登拝に必要な準備の世話をする人びとである。江戸時代に富士講が盛んになると一般庶民の登拝者が急増し、富士吉田の御師は講員に宿泊の場（御師の住宅）を提供する役割を果たしてきた。

しかし、現代においては富士講の参詣者が非常に少なくなったため、御師の住宅の必要性は低くなっている。一方で、2013年に富士山が世界遺産登録されたことにより、富士山の観光化が進んでおり、「御師の住宅」は伝統的な町並みをとどめる観光スポットとして人気を博している。このような現代的状況において、彼らの御師としての立ち位置、自覚、存在意義、宗教観はどのように変化しているのだろうか。

2. 方法

本調査は、2016年4月に富士吉田市で3日間にわたって実施した。現在、富士吉田市（北口本宮浅間神社）の御師団に所属している御師は39名である。その内、アンケートを配布した30名中、24名から回答を得ることができた。御師の基本情報、現在の活動、家族の現状と信仰や宗教観などについての質問項目が含むアンケートを実施した。データは統計ソフトを使ってまとめ、全ての結果は被調査者の了解を得た上で公開している。

3. 結果

回答者24名のうち、実際に登拝者に宿泊を提供している家は3世帯にとどまった。他の21名は、以前、登拝者に宿泊を提供していたが、宿泊者が減少したことにより提供を中止した。統計データによるとこの24名も御師団の活動に積極的に参加している。また、御師団の活動に必ず参加すべきだと思っている者が17名で、参加しなくてもよいと思っている者が6名である。富士山が世界文化遺産となり「観光と町おこし」を意識した新しい仕事も始まり、それに努力する必要があると思っている御師は21人もいる。

4. 結論

御師の活動は従来のものから大きく変化してきた。御師の活動には浅間神社の年中行事と胎内祭、虫干しなどのような御師団の活動が含まれる。また、研修旅行、忘年会のような新しい活動もある。さらに、富士山が世界文化遺産になって以来、観光業という新しい経済活動も徐々に取り組んでいる傾向がみられる。これは登拝者に宿泊を提供している御師と宿泊を提供していない御師も同じである。

5. 参考文献

- 高埜利彦 2009 『富士山御師の歴史的研究』 甲州史料調査会 山川出版社。
竹谷鞆負 2013 「御師住宅」『富士山文化—その信仰遺跡を歩く』 祥伝社 pp.199-209。